

## 「メルケル首相の演説」

2020年01月10日

ドイツのメルケル首相は2019年12月6日、アウシュビッツ・ビルケナウ基金創立十周年記念式典で、演説された。演説はポーランド首相、基金理事長、大使各位、とりわけ証言者の皆さま、お集りの皆さまに宛ててなされたものである。現在の世界を動かす指導者たちの中で、メルケル首相は高邁な政治哲学を持っている人で、私は尊敬している。終戦40周年に、ヴァイツゼッカー大統領が「荒れ野の40年」という歴史的な演説をされた。メルケル首相の演説は、「荒れ野の40年」に匹敵する感銘深い演説である。心を打たれたので抜粋して転載したい。日本では戦争中、蛮行を重ねたにもかかわらず、これを否定し、歴史修正主義が横行している。ドイツ人の過去に向き合う精神性の高さに敬服する。

(略) アウシュビッツ、この名はヨーロッパに住む何百万というユダヤ人たちの殺害、ショアーという文明の断絶を意味する名です。ここで人としての価値観がことごとく犠牲となりました。(略) 人間としての尊厳、一人一人の個性人格を奪い取ることが徹底して行われました。(略) 犯罪を思い返し、犯罪者の名をはっきりと口に出し、被害者にその尊厳にふさわしく思いを寄せようとする、それは決して終わることのない責任です。この責任は交渉不可能なもので、私たちの国と繋がっていて切り離すことはできません。この責任に対する意識を常に新たにしていることが、私たちの国にとっては大切なアイデンティティの一部であり、誤りを悟り、自由を尊ぶという自己理解と法治国家としての自己理解の一部です。(略) 今こそ、そのことを明確に述べる必要があります。というのは、私たちは憂慮すべき人種差別主義、どんどん跋扈しつつある不寛容さ、ヘイトクライムの波に現在遭遇しているからです。自由主義的民主主義の基本価値や、特定のグループの人々に対する憎悪を煽る危険な歴史修正主義に遭遇しているからです。(略) アウシュビッツから生還したプリーモ・レーヴィが後日書いています。「一度、起きた。従ってまた起きる可能性がある」と。だからこそ私たちは虐げられ、屈辱を受け、迫害された場合には、目と耳を塞ぐことは許されないのです。私たちは別の信仰を持つ人々や出身が違う人々に対して偏見や嫌悪を焚きつける人々たちに向かって、反駁していかなければなりません。(略) 私たち一人一人が、その責任を負っています。そしてその責任には、追悼も含まれます。私たちは決して忘れてはならないのです。このことにご破算ということはありません。そしてこのことを相対化することも許されません。

(略) 加害者は多数の場所でその足跡を消そうと試みましたが。(略) しかし、ナチス親衛隊もその手先もここアウシュビッツではその足跡を消すことは叶いませんでした。この土地そのものが犯罪の証明です。この証明は維持されなければなりません。アウシュビッツを訪れ、見張り台や有刺鉄線、バラック、監房、ガス室の残り、焼却炉を一度見た人は、その思い出から解放されることはありません。(略) ヨーロッパの様々な国からアウシュビッツに連行された方々を私たちは追悼します。(略) たくさんのポーランドの被害者を追悼します。600万人もの殺戮されたユダヤ人、ことにここアウシュビッツ・ビルケナウで殺された約100万人のユダヤ人を追悼します。私たちは強制連行され、苦痛を強いられ、殺されたシンティ・ロマの方々を追悼します。私たちは銃殺により大量殺戮された被害者の方々を追悼します。(略) 痛みや思い出を分かち合い、和解のために貢献しようとする話をしてくださる方たち一人一人に、私は心から感謝します。私はその方たちの前に深く首を垂れます。ショアーの被害者を前に深く首を垂れます。